

くて当たりまえ、クリニックの文化を創るのは自分しかない。だから必死にスタッフを鼓舞していたのですが、その号令の強さに反するように開業当初はスタッフがどんどん退職していくのです。入社してもすぐやめるの繰り返し。気づいたら誰もついてきていない。給料もそれなり渡しているのに去っていく理由が、私にはまるでわかりませんでした。そのときに二番よく話をしたのが求人雑誌の営業マン。人がどんどん辞めるので話すのが彼しかないのです。「先生のとこ、いったいどれだけ退職するんですか？大丈夫？まあうちは儲かるからいいけど……」。そんな会話ばかり。でもそこでようやく気付きました。誰よりも人間力が足りなかったのは私でした。おおきな借金をかかえ必死になりすぎるあまり、周りが見えていませんでした。スタッフへの感謝もきちんと伝えていない。言わなくてもわかるだろうと傲慢になつていたかもしれない。考えてみると「～したらダメ」「あそこがダメ」と言うて否定ばかりしている。これだと人はついてこない。モチベーションも当然あがらない。だからスタッフの可能性を信じ切ろう、成長を認め積極的に褒めよう、失敗でなく伸びしろと捉えよう！と思いなおし、接しかたを変え、わたしがホスピタリティ精神を実践することで、徐々に退職者が減っていききました。

強力なライバルとなる える競合歯科医院を みずから創っている

冒頭でお話しましたが現在当院には約100余名のスタッフが在籍しています。一般歯科医師、矯正歯科医師、口腔外科歯科医師、麻酔歯科医師、歯科衛

生士、歯科技工士などあらゆる分野のスペシャリストが揃う、まさに“多機能型歯科医院”です。このスタッフ一人ひとりの個性や人間性を磨き、それぞれが自分の才能を生かし輝いている。そんな組織をつくり、個のパワーから組織のパワーに昇華させていくのがわたしの役割。そのために幹部スタッフには歯科医師としてのテクニカルスキル、人としてのヒューマンスキルにぐわえ、経営者としてのリーダーシップスキルをつけるべく院内でさまざまな勉強会を開催しています。歯科医院は日本にたくさん存在しますが、経営者たる歯科医師“を育てるべく取り組みをしているクリニックは他にないのではと思っています。あの意味でいえば強力なライバルとなりえる競合歯科医院を、自ら創つているといえますが、根底にあるのは「歯科医療は命を守るだけでなく、人生の質を支えるものだ」という考えかたをもつと世に広めていきたいという想いです。以前の歯科医院は、歯が痛くなつてから直す場所。最近では歯が痛くならないよう予防する場所に変つてはきているものの、欧米に比べると日本人の歯への意識はまだ低い。「日本人はお金持ちが多いのになぜ歯に投資しないの？」「高級ブランド品を買う前に歯をきれいにしたら？」と欧米の人から思われているのです。すこし前の話ですが、アメリカの雑誌表紙を松下幸之助さんが飾つたときに、歯がきれいではなく、日本を代表する経営者がこれいいのか？！という日本人歯科医からの投稿があり、日本の顔として国際的な行事に出るなら歯を真っ白にしてほしい、私が歯を綺麗にします」と連絡したエピソードを聞いたことがあります。

日本人の歯の意識をあげていきたい！日本ではまだまだ「歯科は後回しでい

い」と考える人が少なくありません。しかし実際には、口腔の健康は全身の健康と密接に結びついています。松下幸之助さんは見た目のお話ですが、それ以外に糖尿病や心疾患、認知症の予防にも、歯科が大きな役割を果たすことがわかってきています。そもそも「噛む」という行為は生きることに同じ。もし動物であれば草食でも肉食でも、歯がなくなると「死」を意味します。噛む機能がなければ栄養を摂取できず免疫力もあがらない。だから動物は歯がなくなるような、例えば甘いものを食ったりということを本能的にしません。ただ動物がペット化されることで、本来食べないものを食べ、歯周病になつたりするのです。しかし歯科医がいることで人間の場合は歯が無くなつたとしても、入れ歯で約30%、インプラントを使えば約90%くらいまで機能回復するので、ほぼ天然の歯に近くなる。これは歯科技術の進歩の賜物。歯科医師として大いに自信を持つていい部分であるとわたしは感じています。

無理！といわれることに 挑戦して得られるものつて すごく大きいし楽しい

大勢の人が行く方向にあえていかない。賛否両論あるものにチャレンジしていく。これが私の生き方。なにかをするときに全員が賛成するものつて、それはもう遅いのではないかと、あんまりたいしたものではないのでは？とか、そもそも自分がやる意味があるのか？と思つてしまう。予定調和からはすこいものは生まれてこない。こつちでは大賛成！こちらでは大反対！みたいなものに対して全力でぶつかっていくときに、あ、いま俺生きているぞ！とワクワク感が止まらなくなるのです。勉強のたいしてできないお前が歯医者になるってどうかしたか？1億2000

万円借り入れて住宅地で歯医者さん開業するなんて狂気の沙汰でしかない。正月以外休みがない歯医者なんて絶対に続かない。分院をつくらずにあらゆる歯科診療をするなんて無理だ。いろいろと言われましたが、言われれば言われるほど挑戦したくなる。それは自分の考えに固執しているのではなく、そんなことが出来たら楽しいぞ！という好奇心です。大谷翔平選手の二刀流だつてそう。常識的に考えればそんなことできるわけないし、した人もない。でも1人だけその可能性を信じ切つていた人がいた。そう大谷翔平選手ご本人です。わたしもそう、その常識つて誰が決めたの？とすぐ思う。常識なんてただの思い込みでしかない。そんな勝手な人の思い込みで大切な自分の一生を左右されたくない。いまの若い人をみてみると、そこがもつたないと思うことがあります。せつかく頭もいいし能力もあるのに迎合してしまつて自分の可能性を解放できていない。無理！といわれることに挑戦して得られるものつてすごく大きいしとんでもなく楽しい。今年で62歳になりましたがこれからもりようき歯科クリニックを私もまだ見えない非常識的なステージにひきあげていきます。



7.2時間のインタビューが一瞬で過ぎていきました。強力なリーダーシップで組織を率いる領木さんの強さやパワーの根源を深く理解できた充実の時間となりました！

歯科医療は

命を守るだけでなく、

人生の質を支えるもの